

Message

ドローンとタケコプター

2021年7月23日に東京2020オリンピックの開会式が開催されました。様々なパフォーマンスが演じられた中、ドローンによって夜空に描かれた幻想的な大会エンブレムや地球の姿に感銘を覚えた人は多いのではないのでしょうか。詳しい説明はITmediaのこちらの記事 (<https://www.itmedia.co.jp/news/articles/2107/30/news142.html>) を参照していただくとして、1824台ものドローンによる一系乱れぬ連携プレーはまさに最先端の技術の結晶でした。また、全身を使って競技種目のピクトグラムを表現したパフォーマンスも好評でした。こちらはドローンとは正反対に超が付くほどのアナログ技術ですが、世界中の人々の心が一つになった瞬間でした。

話をドローンに戻しますと、ドローンは小型なものから大型なものまで開発が進められていて、ドローンの活躍する場面は広がりつつあります。空中から映像を撮影するだけでなく、荷物を運搬したり、あるいは、人間を運ぶドローンタクシーも考えられています。情報通信の分野では、携帯電話のネットワークにドローンを使用して、電波の届きにくい地域に電波を届けられるようにするといった研究が盛んに行われています。皆さんならドローンを使ってどのような新しい使い方を思いつくでしょうか。

ドローンから連想されるのは、ドラえもんの「タケコプター」ですね。40年以上前のことですが、私も幼少期にドラえもんのアニメを夢中になって見ていました。当時は、タケコプターはアニメの中の存在でしたが、ドローンの登場によってタケコプターは実現されたと言ってよいのではないのでしょうか（もちろんタケコプターほどの手軽さはまだですが）。この他、ドラえもんのひみつ道具^[1]を調べてみると、「かべかけテレビ」と「太陽電池」は完全に実現されていますね。箱型の大きなテレビに受話器などの装置を取り付けてテレビ電話をする「テレテレホン」は、今や手のひらより小さいスマートフォンで実現されています。スマートフォンの進化はアニメを超えました。さらに、翻訳技術や音声認識技術がもう少し進歩すれば、スマートフォンで「ほん訳こんにやく」も実現されそうです。他方、私個人としては、長時間飛行機に乗らなければならない海外出張に行くときに「どこでもドア」が欲しいと強く思うのですが、これはちょっと難しそう…。

現在、ドラえもんのアニメのオープニングは星野源さんの曲が使われていますが、当時のオープニング曲の歌い出しは「こんなこといいな できたらいいな あんな夢 こんな夢 いっぱいあるけど〜♪」^[2]でした。皆さんにとって、できたらいいなと思う夢は何でしょうか。大きな夢もあれば、小さい夢もあることでしょう。できたらいいなと思いつけることが、将来の技術の進歩につながっていくと思います。

参考文献

[1] 藤子・F・不二雄（監修），ドラえもん最新ひみつ道具大事典，小学館，2008。

[2] ドラエモンのうた，作詞：楠部工，補作詞：ばばすすむ，作曲：菊池俊輔，1979。

（埼玉大学 木村雄一）

